

なる艦砲と銃爆撃とは我が行動を制する所大にして逐次陣地を
奪食せらるるに至りたるも第六十二師團及歩兵第三十二聯隊（第
二十四師團）の防禦戦闘に依り敵に至大の損害を與へ二十三日敵
の攻勢は頓挫せり

其の状況左の如し

(1) 四月十九日朝來淺川正面に猛烈なる艦砲射撃爆撃を開始し沖合
に多數の艦船群碇泊し背面上陸の企圖を呈示す北方陸正面に於
ては陣内に侵入せし敵戦車約四十五輛を擱挫炎上せしむるの外
陣地線著變なし

(2) 四月二十日我陣地左翼方面に對する敵の攻撃は逐次進展し夕刻
に於ける戦線は右翼及中央方面大なる變化なく左翼方面に於て
伊祖四四高地牧川附近に進出せり

(3) 四月二十一日一四一高地に我如古一嘉敷を確保し敵進入の都度
之を擊退す左翼方面は二十日夜夜襲により伊祖一四一八高地線に

進出せるも全面的に吾陣地を奪回するに至らず

(4) 四月二十二日、二十三日攻防戦を續行せるも二十三日に至り敵
の攻撃は頓挫す

毛敵の攻撃頓挫時より軍の五月四日攻勢前途の軍の統帥

(1) 四月二十三日敵の攻勢一應頓挫せるも我第一線の戦力亦逐次低下
せるを以て此處に第二十四師團全力を第六十二師團の右翼に並列
せんとすることに關し研究せられ軍司令官亦之に同意し第二十四
師團をして二十四日より機動を開始せしめ二十七日概ね其の主力
の機動を完了せり
敵は一部の陣地に對し蚕食的攻撃を實施せるも全般の態勢變化な
し

(2) 四月二十九日爾後軍の作戰指導を如何にすべきやに關し幕僚會議
開催せられ死中活を見出すは猶我に攻勢餘力を有する間へ現在第
二十四師團主力及獨立混成第四十四旅團尙戦力大敵第二十四軍

二四
國に痛撃を與へ戰勢を挽回するを要すとなし茲に五月四日の攻勢を決定せり

(5) 攻勢計畫の概要

(イ) 第六十二師團を以て左翼支隊を堅固に保持せしむ
(ロ) 第二十四師團を以て右翼正面より攻撃し普天間東西の線に進出せしむ

(ハ) 獨立混成第四十四旅團を以て第二十四師團の攻撃進展に伴ひ大山方面に攻撃前進せしめ戦果擴張を許す

(ニ) 獨立混成第四十四旅團の成果に伴ひ第六十二師團を以て牧港方面に攻勢に轉せしむ

(ホ) 攻撃開始は五月四日とし黎明攻撃に依り敵陣内に敢然楔入し紛戦状況に導く
之か爲三日夜東西南海岸より有力なる海上挺進隊を派遣し敵の側背に上陸して之を掃蕩せしむ

(4) 本作戦準備は比較的長時間の余裕ありしを以て各部隊の準備は順調に實施せられたり時に左翼支隊たる第六十二師團方面は攻撃準備固或は敵の攻撃に依り大なる壓迫を受け其の戦勢に破綻を來すことあるべきを憂慮しありしを斯る状況發生せざりき

又本攻勢に策應する陸海軍航空の協力を求め聯合艦隊、第六航空軍は四日其の第六次總攻撃を實施することとなれり

八軍の五月四日よりする攻勢と其の經過概要

(1) 攻勢發起の状況

(イ) 五月三日夜半海上挺進隊(約一〇〇〇名)は東西南海岸より列舟及びリーフ線徒渉に依り敵側背に挺進を開始す

(ロ) 四五〇より約三十分の攻撃準備射撃を實施したる後〇五三〇攻撃兵團の一部は小長東北方敵陣地に突入し〇九三〇頃に至るや概ね上宮棚原高地を占領せり軍砲兵隊觀測所よりの報告に依れば敵は動搖の兆ありて自動貨車に依り後退するものを見す

と一五〇〇第一線兵團は小部北側一〇一三高地南側一五
六八高地南側一五四高地附近に進出せり然れ共第二十四師團
の一部は午後に至るも依然小瀬川、津花坂、奥屋附近に在る旨
の報告に接す

(イ) 四日夜獨立混成第四十四旅團は主力を今長高地の線に一部を棚
原一四三高地に進進するに決す

(ロ) 四日午後に至るや第一線と後方との間は砲爆撃に依り遮断せら
れ第一線大隊の状況明かならず

然れども軍は決心に變化なく依然攻撃を續行する如く指導す
(ハ) 第一線は五日朝迄に棚原北側の一五四九高地に進出せり

(2) 攻撃中止の状況

(イ) 五日朝第二十四師團の報告に依れば師團に於ては一部攻撃成功
の外損害極めて大なり此に於て連日依然其儘或は規模を縮少
して攻勢を續行すへきや損害の状況に鑑み攻撃を中止すへきや

に關し仔細なる検討を加へたる結果一八〇〇攻撃中止を命し舊
陣地に於て最後の出血作戦を敢に強要せんことに決す

(3) 攻撃中止直後の状況

(イ) 七日朝迄に第二十四師團は概ね舊陣地に態勢を復歸せり

(ロ) 第二十四師團の報告に依れば棚原に進出せる大隊は極めて有利
なる戦鬪を實施し七日再び敵線を突破して歸還し損害僅か數名
なり

上原方面に進出せる部隊も右と概ね同様なりと

又海上挺進部隊は殆ど無血上陸し有利なる戦鬪を實施し且始め
て使用せし戦車部隊亦前田高地に於て四日終日有利なる戦鬪を
續行しありたり

本報告は蓋し五日に於ける報告と極めて矛盾するものなり此の
状況にして五日午後判明せんか必ずや攻勢は志氣旺盛の下に繼
續せられ幾多有利なる戦勢を現出し得たるなるべしに惜しむべ

し軍は最後必死の攻勢に方り之を過早に中止せしむるの止むを得ざる運命を辿れり

九首里最後の攻防戦線縮少の経緯

(1) 首里防禦態勢に關する軍の見解に就て

攻撃中止後軍は飽く迄其を張り後方部隊を第一線に投入しつつ持久すべきや戦力を集約しつつ首里周邊に圓形復讐陣地的に態勢を整理すべきや此就を檢討せり後者は敵に包圍態勢よりする勝利感と與へ海上よりの支援中絶の虞れあるのみならず天賦航空作戦の主旨たる航空に依る船艦攻撃を困難ならしむること無きを保せざるを以て前者の方式に依り敵をして正面より力攻せしめ艦船隊を吸引牽制し天賦航空作戦を有利に續行せしめんとするに決せり

(2) 茲に於て特設機團及聯隊(船舶部隊、海上進進基地部隊、貨物廠等を以て臨時編成す)敵に海軍部隊の一部を全面的に前方に推進し戦線確保に努力す

(8) (1) 五月九日再び敵は全面的攻勢を開始せるも幸地以東は主陣地の線幸地以西は前田南方無名部落一經塚一安波茶西方高地の線を確保しあり内間は遂に奪取せらる

(2) 十日安謝附近に對し敵は舟艇に依り上陸す十二日敵は那覇北方安謝附近に第六海兵師團を投入し我が左翼を壓迫しつつ首里に近迫しつつあり十三日終日天久西方臺一高橋町一崇元寺町一安里各北備臺一眞喜比西北無名高地附近の線を保持し敵の滲透攻撃を阻止す

(3) 軍は敵の攻撃を阻止して首里東西の線の確保に努力したるも十四日夜に至り遂に澤城及經塚附近平良町一大名一末吉の線に後退せり十五日敵の強壓に依然天久より那覇方面に指向せられ獨立混成第四十四旅團の損害亦少からず十七日早朝西原村一五〇高地を奪取せらる十九日敵の攻撃は一般に低調なるも戦線後方は依然活況を呈しつつあり

(4) 五月二十日に於ける軍の戦力別表の如く軍の戦力態勢を整頓し一層の出血強要に努力するの方案を考案し二十日夕茲に島尻地區に戦線を整理縮小するに決せり
別表(一)

兵 團	歩 兵	其 他	備 考
24D	二六〇〇	三七六六	一、24Dは五月十日頃戦力激減し兵數不詳なり
44Bs	一六〇〇	二三〇〇	二、其他は砲、工、輜重、衛生關係部隊なり
軍 直		四〇〇〇	三、歩兵中には指揮下に入りたる他兵種部隊を含む
海 軍		一〇〇〇〇	
計	四二〇〇	二〇一〇〇	

別表(二)

火 器 彈 藥	數 量	備 考
野 砲 以 上	九五門	作戰開始時の 六〇%
小口徑砲及迫撃砲	一〇〇門	作戰開始時の 三〇%
MG		
LG		
彈 藥	A級 一基數 B級 一基數 A級 六基數	作戰開始時は一會戰分

(5) 後方陣地への轉移の状況

(1) 二十二日早海岸方面よりする敵の滲透急にして今や之を阻止し得べき戦闘餘力無く二十四日夜第六航空軍の義烈空挺隊北、中飛行場に強行着陸攻撃せるも地上作戦に影響を及ぼすに至らず又天候不良は航空特攻攻撃を以て其の戦果を擴張せしむるに至らず

(2) 二十三日頃より後方部隊を逐次島尻地區に移動せしむると共に

二十五日第六十二師團の主力約二〇〇〇を首里地島より津嘉山の轉進を容易ならしむ二十九日軍主力は逐次南下を開始し有力なる一部及海軍部隊は現陣地より新陣地に至る間既設陣地を利用して徹底せる地域抵抗を實施す三十日軍司令部は摩文任南側八九高地に移轉を完了す三十一日連日の雨を冒し敵空地の攻撃行動活潑なるも我砲兵及第一線の撤退は概ね順調に進捗す殘置部隊は稻幅「中程」喜屋武「宮平」東側「宮城」一三八高地「赤田町」南側「壺尾」南側「那」南端の線に於て敵と接觸す六月一日軍は概ね態勢轉換を終了せるも敵は我が企圖を察知せしもの如く其の砲撃は逐次喜屋武半島方面に移行す三日敵の追撃は激なりす彼我接觸の線は概ね稻嶺北側「友寄」長堂「根差部」の線に在り各兵團軍砲兵隊主力は概ね新陣地内に配備を完了す

6) 沖繩島の戰勢に伴ひ在呂古島及石垣島兵團に對する軍の統帥及び

ざるを考慮し第十方面軍は五月下旬右兩島兵團を方面軍直轄とせり

大島尻地區の軍の終焉 戰闘

(1) 六月四日〇五〇〇海軍守備地區たる小祿附近に敵上陸し之に強壓を加へつつあり

五日敵は逐次大島尻主陣地に近接す具志頭には約二〇〇〇の敵進出せるも一八〇〇之を撃退せり

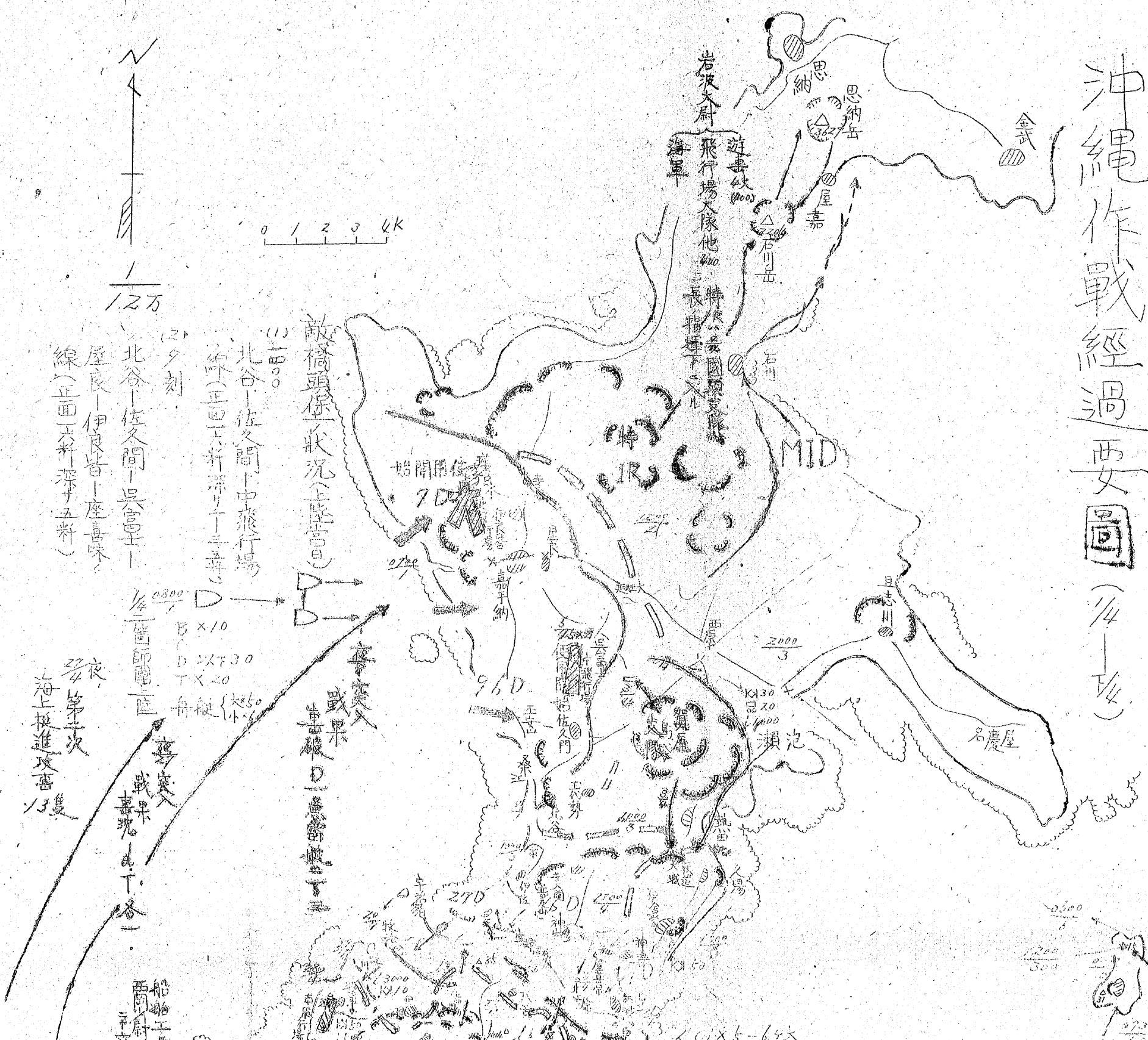
八日夜殘置部隊たる第二十四師團歩兵第二十二聯隊主力は陣地内に撤收を完了せり十一日主陣地たる安里北側高地の爭奪熾烈にして又五日以來小祿地區に於て奮戰中なりし海軍部隊との通信杜絶するに至る十二日主陣地右翼に對する敵の攻撃熾烈にして又糸滿西方海岸よりする敵の策應行動顯著なり即ち水陸兩用戰車三〇眞榮里西北海岸に上陸す

十六日右翼獨立混成第四十四旅團方面に第六十二師團の殘余兵力を投入し敵の突進を制止するに努めたるも敵は一五七六高地附近

に滲透す中央及左翼方面は依然主陣地の線にて死闘を繼續す
(2) 前項の如く軍は死力を盡して最後の奮戦に努めしも十七日に至りて統一戦術指導困難となり各部隊は現位置を固守して局部的戦闘を續行するの止むを得ざるに至り軍司令官は十九日袂別の電報を發す二十日戦術は各部隊の所在地に於て繼續し第二十四師團は眞榮平東方高地眞壁北側高地附近に尙健闘中なるもの如し
二十二日に到るや軍と各部隊及大本營間通信杜絶し二十三日朝軍司令官及軍參謀長は摩文仁南側軍司令部に於て從容として自決す斯の如くして作戦開始以來三ヶ月敵に多大の出血を強要したる第三十二軍は其の健闘に依り本土作戦準備に多大なる貢獻を爲して沖縄本島に終焉せり

附圖第一

沖繩作戰經過要圖 (1/4 張)



0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100